

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500115		
法人名	株式会社愛ホームサービス		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	神戸市兵庫区下沢通8丁目2-20		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフクラブナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	兵庫県尼崎市武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成27年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護理念のもと、入居者様の尊厳を守るケア、入居者様が主体のケア、入居者様の想いに寄り添うケア、入居者様の心の声を聴くケア、入居者様の家族のような援助者を目指し、職員一同心を一つにして日々の支援を行っております。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>NPO法人から株式会社に組織替えて3年目であるが、グループホームとしては10年の実績がある。現在の場所に移って3年目になり、地域住民との関わりも自治会参加や運営推進会議での交流により徐々に増えてきている。3階建ての建物の2階がグループホームで、1階はディサービス、3階は有料老人ホームとなっている。各部門の協力体制ができており、ディサービスのレクリエーションと一緒に参加して楽しんだり、会議時の他部門からの応援もある。24時間医療体制の充実に力をいれており、利用者・家族、さらには職員にも安心感を与えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、昼の申し送り時に介護理念を全員で読み上げ、共有して、実践への心構えとしている。	理念はグループホーム入口に掲げてある。日々の介護で実践するため毎朝申し送り時に職員全員で復唱し、業務日誌にも掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり、運営推進会議には、自治会の役員の方に参加して頂いています。	自治会に入会しゴミ当番や救命救急士や消防の講習会に職員が参加して交流している。ご近所の方から花を頂くこともあり、事業所で餅つきをした時にはご近所に配ったりして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当初の行事(花火大会、餅つき等)に参加を呼びかけ協力頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状のサービスや活動内容を報告し、その上で、ご家族様の希望や意見を今後のサービスに生かせるように、取り組んでいる。	利用者(1名)と家族代表(1名)、地域住民(2名)、中道高齢者介護支援センター職員、他グループホーム職員の参加の下、2か月に一回開催し、事業所の活動内容を報告している。昨年グループホーム連絡会が発足して他のグループホームの責任者の参加もあり意見交換ができいろいろと運営の参考にされている。	家族の方たちに事業所の取り組みをより知って頂くために、運営推進会議の開催、参加呼びかけ、議事内容の報告をされていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	神戸市への報告は、怠らず事業者研修などには、必ず参加し今後共協力関係を築いていきたい。	市主催の研修会等には積極的に参加し、日々の介護で相談すべき案件については連絡をして指導を仰ぐ等して協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアや月一回の定例会議で職員の理解を深め、指定基準にそって、身体拘束のない介護を実践している。	事業所一階の玄関はディサービスでの出入りがあるため施錠はしているが、エレベーターは自由に利用できる。身体拘束をしないケアについては、日々の介護や定例会議で職員に意識付けをしている。今後は外部講師を招いて研修を行う予定である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアや会議で職員の理解を深め、職員相互に見守りをし虐待のない介護を実践している。	日々のケアや会議で職員の理解を深め、職員相互に見守りをしている。事故防止のためヒヤリハットを作成し職員がケガ等にも注意をしている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を職員が勉強する事から始めて家族様に説明出来るように努力して行きます。	現在成年後見制度を利用されておられる方はいない。今後管理者が権利擁護について理解を深め、必要に応じて家族を支援していただけるように努め、職員にも制度の理解を図るようにしていく。	今後利用者が成年後見制度を利用する場合に支援できるように管理者・職員は研修に参加する等して制度を学んでいかれることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、運営規定を、共有し、読み上げ説明し、質問を受けている。	改定された時はその都度文章で伝えている。質問された時は説明して理解して頂いている。重度化・終末期対応は契約時に説明して「緊急時の対応希望」の書類を作成し確認をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1度の運営推進会議には、家族会に参加を依頼し、また来所時には、気軽に話して頂き、モニタリング、介護計画に反映している。	運営推進会議や家族会の時意見を出して頂いている。又、面会時に直接お話を伺うこともあり、運営に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフト制のため、全員揃っての会議は難しいが他部門の協力を得て、多くの職員が会議に参加出来るよう努力するとともに、結果を全員が周知出来るよう報告をしている。	定例会議で職員の意見を反映できるように他の部門(有料老人ホーム・ディサービス)の職員の協力を得て参加できるよう配慮している。また、直接上司に発言できる雰囲気もできており信頼関係が生まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各自が向上心を持って働けるよう支援していく方針です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受ける機会を設け成長出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の同業者との交流、研修に参加する機会を作り、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議やご家族様来訪時には、話す機会を持ち、現在の状態を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談して頂ける事を説明し、気軽に話せるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応での見極めに努力をし、他のサービスの利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の家族の様な援助者を目指し、家族的な対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に報告、相談をしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には特に規制などは設けず、電話などにも対応し、関係が途切れないように支援に努めている。	近隣に暮らす利用者の友人・知人の訪問が頻繁にあり、楽しい時間を過ごされるよう支援している。馴染みの場所にはご家族の協力の下、かかりつけ医の受診の時に外出に出掛ける等している。正月に自宅に戻られる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守り支援している。レクリエーションなど共有時間を大切にしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、連絡があれば対応している。退去後は、現況支援出来ていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向にはできる限り配慮している。	利用者とのかかわりの中から把握しているが、難しい時はご家族との話し合いで希望を把握するようにしている。利用者の要望(大きな字で書いてほしい等)細かい所も大切にしたい要望に答えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを出来る限り把握し、希望に添えるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的变化に対応するため、常に見守り努力している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の望む暮らしを基本にしながら、現在のご本人の体調を考慮し、職員とカンファレンスを行っている。	介護計画は三ヶ月に一回、利用者・家族の希望や職員の話し合いで作成している。排せつ介助の方法等職員の考えを反映させている。家族には出来上がった介護計画を見て頂き、意見を頂くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は一日の流れを記録し、業務日誌や、申し送りを重視し情報の共有を欠かさないように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと合同での催しに参加したり、その時々のご本人、ご家族のニーズに対応出来るよう努力している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に活用しているとは言えない 運営推進会議等を通じ地域との交流を深め地域での催し等に参加していきたい。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を確認したうえで、医療機関を受診している。主治医には定期的な往診と必要時の外来受診をお願いしている。	利用者が希望される場合はかかりつけ医に家族に付添いを依頼し、その他の利用者は協力医療機関を受診している。一週間に一回往診があり、歯科の訪問も六カ月に一回実施されている。24時間対応なので職員も安心して介護できる。訪問看護も一週間に一回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護をうけている。24時間常に連絡が取れるため訪問看護とは、密接な関係がとれている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、退院時には、病院から、必要な情報提供を受けている。	現在お一人の方が入院中である。職員は毎日病院に見舞いに行き、面会し病院から情報を得て退院後の利用者の生活の計画に反映させている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医、ご家族と話し合い事業所としての、出来る範囲を説明し、方針を共有し実践している。	入居時に重度化した場合の事業所での対応について説明し、意向をきいている。重度化した場合は主治医、ご家族と話し合いを持ち、方針を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修はできていないが訪問看護との24時間対応ができており、常に指示を受ける事が出来る。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの指導により、年に2回訓練を行っているが、現況、全職員が身に付けているとは言えない。	年2回消防署の協力を得て訓練を行っている。夜間を想定した訓練や災害時の備蓄は未だされていない。地域住民とは運営推進会議で災害時の協力体制等を話し合っている。	夜間を想定した避難訓練の実施や備蓄の備え、マニュアルや緊急連絡網の見直しや確認等、細部に亘る対策の充実を図られることを期待します。運営推進会議で地域住民の方から事業所の災害訓練に参加したい旨の申し出があるので共催で是非実施されることを期待します。、

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守り利用者の人格を大切にすると介護理念に掲げ、対応している。プライバシー保護には常に配慮している。	「利用者の尊厳を守るケア」を介護理念に掲げ、実践に努めている。排泄ケアや入室時のマナー、書類の管理においてプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望に配慮し、自己決定を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する事のないよう、言葉かけをし希望を優先する様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣服や好みに配慮出来るよう、ご家族様の協力もお願いしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事や体調に配慮しながら、出来る事を手伝って頂くようにしている。	朝食はパン、サラダ、飲み物等、昼食は高齢者の食事に配慮された器に入った弁当であるが、見た目も良く完食される方が多い。夕食は半調理されたものを仕上げ、ごはんは大きなジャーで配達され、みそ汁はホームで作るので家庭的な調理の匂い等を感じることができる。たこ焼き等の手作りおやつの日やお誕生日のケーキの日がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、食事量、水分量には、配慮し介護記録に確実に記録し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施、声掛けは毎食後欠かさずしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンを把握し、適切な声掛け本人からの訴えが引き出せるように努力している。	便意、尿意のある利用者が多く布パンツを使用している方が多い。排泄パターンを把握し声掛けをしてトイレ誘導をしている。居室にトイレがあるので夜間でもポータブルトイレは使用せず紙パンツも必要最小限にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取を促すなどの努力をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現況利用者個々に支援は出来ていない、時間帯は施設の都合で決めている。	入浴は冬場は週3日に一回であるが、夏場(6月)からは2日に一回となっている。入浴を嫌がる利用者もおられるが家族の方の面会時に声掛け等で協力して頂いたりして入浴回数多くして清潔にするよう努力されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室において、好きな時間に休息出来る、状態は確保出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は職員共有し管理している。疑問については、薬局と連携をとっているのいつでも確認出来る状態にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、家事の手伝い程度の支援しか出来ていない。嗜好品等は家族の協力を得ている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度程度の行事等努力しているが、各個人に十分な援助が出来ているとは言えない。	新開地大衆演劇、須磨水族館、生花展(大丸)等に出掛けている。家族と一緒に外食や墓参りに出掛けられる方もおられる。毎日の外出や買い物、散歩等が難しい方は広々とした展望の良い屋上庭園で過ごして頂くようにしている。1階ディスプレイと合流して音楽療法、ヨガ、気功等ボランティアが来られる時に一緒に楽しまれている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の中では、現金は使えないので、お金を所持出来るような支援はおこなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から、希望があれば、支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者の写真等楽しめるものを飾るなど工夫している。室温には、配慮している。	共用空間はほどよい飾りで家庭的である。ベランダには鉢植えの花もあり、利用者は「綺麗でいい」と満足そうな顔をされていた。屋上には園芸、野菜作りもできるスペースがあり、気分転換に利用できる空間である。暑さを防ぐためすだれやよじずを置く等して日よけ対策等、季節ごとの方法を工夫されればなお利用できるスペースになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中では、気の合った人と話が出来たり屋上庭園等のスペースも用意している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや好みの物、居室に配置し、利用して頂いている。	居室にはそれぞれに洗面台やトイレがある。個人個人、居室作りは異なっているがそれぞれ個性がでていいる。今後も関わりの中で家族の協力を得ながらその人らしい居室作りを期待します。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具やベッドの配置などを考え安全に配慮している。		

## 基本情報

事業所番号	2890500115
法人名	株式会社愛ホームサービス
事業所名	グループホーム愛
所在地	神戸市兵庫区下沢通り8丁目2-20 (電 話) 078-512-5107

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成27年5月26日	評価確定日	

【情報提供票より】( H27年 5 月 1 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成24年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 名	常勤 4 名	非常勤 6 名 常勤換算 8 名

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 15,000円	
敷 金	無	共益費10,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 期間:3年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	食費に含む 円
	または1日当たり 1,300 円			

### (4)利用者の概要( 5月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低 82 歳	最高 99 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	武田医院、松本ホームメディカルクリニック、明石デンタルクリニック
---------	----------------------------------

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に利用者のご家族様の出席率が低いため現状のサービスや活動内容の報告が十分とは言えない。	できるだけ多くのご家族様に運営推進会議に参加して頂き、現状のサービスや活動内容を報告する。	「愛だより」へ開催日時の記載や直接連絡するなどして、運営推進会議の開催参加を呼び掛ける。	12ヶ月
2	8	成年後見制度について管理者や職員が十分に理解できているとは言えない。	管理者や職員が成年後見制度について理解し、ご家族様に説明できるようになること。	月1回定期的に研修を実施しているので、その内容に成年後見制度について学ぶ機会を設ける。	12ヶ月
3	35	災害対策として夜間を想定した訓練や災害時の備蓄が不十分な点	日中、夜間を問わず、利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに地域との協力体制を築く事。	出来るだけ多くの職員が訓練に参加できるようにするとともに、最低限の備蓄も設置する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )